

糺谷小わくわくスクール4年生

4年生を対象に講座「がっつり理科実験～水の温まり方～」を、8月5日（木）に開催しました。当日は10人の参加があり、保護者の方も見学にいらっしやいました。

この講座は、本来であれば授業で12月以降に学ぶ単元を、先に学んでしまおうというものです。教科書を読み込み、先に実験結果を分かった上で実験に臨むようにしました。いわゆる「教えて考えさせる授業」です。本校では、授業高度化支援センター代表の鍋木良夫先生が推奨する「先行学習」の手法を取り入れ、実験を進めました。

授業の目標は、「水は熱せられた部分が移動して全体が温まること」を理解させることです。このことを教科書を使ってきちんと理解してから、実際にどうなのかを確かめる実験をしました。

写真に示すように、ビーカーや試験管を使って、コーヒーの出し殻や示温インク（サーモインク）を使って確かめました。「対流」や「伝導」という用語理解も、国語辞典を使って調べ、分かったつもりを避け、確実に習得できるようにしました。

さて、これだけではありません。これだけでは詰め込みといわれてしまいます。ちゃんと習得した知識を使って子どもたちに考えさせます。活用課題として二股試験管に入っている水の温まり方について考えました。図を使って説明するなどの工夫が子どもたちから出てきて協議が盛り上がりました。単なる早々ではない、きちんと根拠のある予想を立てることができるのは、先に習得した知識があるからです。

最後に、理解度評定です。授業始めに行ったものと比べると、どの子も学びの質が向上したことをうかがわせます。

